

2026(令和8)年度
大学院入学試験 博士後期課程秋入学Ⅱ期
人間生活学研究科 食物栄養学専攻

英語試験問題
(栄養科学分野)

(注意事項)

1. 筆記用具は、鉛筆、またはシャープペンシルを使用してください。
2. 解答は、解答用紙に記述してください。
3. 解答用紙は、2枚配付します。足りなくなった場合は挙手してください。
4. 受験番号・氏名は、すべての解答用紙に記入してください。
5. 試験時間は60分です。

以下の英文を読み、要点を日本語 400 字以内にまとめよ。

In the 1970s and 1980s, Japan had the longest life expectancy in the world, with Okinawa being the region with the highest life expectancy. The primary reason for this was the low mortality rate from cerebrovascular disease. Until around 1980, this disease was overwhelmingly the leading cause of death in Japan. The number of deaths per 100,000 people was approximately 250 nationwide, compared to around 150 in Okinawa. Malignant neoplasms (the second leading cause of death) and heart disease (the third leading cause) were also considerably lower in Okinawa than the national average.

Several factors have been cited as contributing to this. These include a warm climate, low salt intake, a historical influence of Chinese food culture leading to a high intake of high-quality protein from pork, and the fact that the land was formed from coral reefs, resulting in soil and water rich in calcium and magnesium, high calcium content in drinking water and agricultural products, and significantly higher calcium and magnesium intake than the Japanese average. In particular, the high calcium content of sweet potatoes (also known as Satsumaimo, and said to have been first introduced to Japan in Okinawa) was a contributing factor. Okinawa, despite frequent typhoons making rice cultivation difficult, suffered little damage to its sweet potato crop. However, Okinawa, known as a region of longevity, suddenly saw its male life expectancy plummet to 26th place in 2000, a phenomenon dubbed the "26 shock." In 2010, the female life expectancy, which had always been at the top, fell to 3rd place, and the male life expectancy to 30th, a phenomenon dubbed the "330 shock." However, it's important to note that while the rankings have dropped, life expectancy itself has continued to increase. This is likely due to a decrease in mortality rates from various diseases across Japan, as a result of increased attention to strokes and other related illnesses.

解答

解答例

①1970、1980 年代沖縄県民は、世界では最も長寿であった。最大の理由は、脳血管死亡率が低かったことである。日本人の最大死因は同疾患が圧倒的に高かったが、沖縄は非常に少なかった。要因として、温暖な気候、低い食塩の摂取量、豚肉からの良質タンパク質摂取量があったこと、土地がサンゴ礁でできていたために飲料水、農作物のカルシウム含量が高かったことが挙げられる。特に主食の甘藷はカルシウム含量が高かった。沖縄は台風が多く甘藷栽培が適していた。しかし2000 年に急に男性の寿命が26 位に転落し「26 ショック」と呼ばれた。2010 年には、それまで常にトップであった女性の寿命が3 位に、男性では30 位に転落し「330 ショック」と呼ばれた。しかし、順位は下がったが寿命自体は延び続けている。背景には、日本全体が脳卒中の死亡率が低下したことが挙げられよう。

②日本人の寿命は、1970、1980 年代世界のトップであり、その中でも沖縄は最も長寿であった。その最大の理由は、脳血管死亡率が低かったことが挙げられる。日本人の最大死因は、1980 年ころまで同疾患が圧倒的に高かった。人口10 万人当たりの死亡者数は、全国約250 人に対して、沖縄は150 名程度であった。死因第2位の悪性新生物、第3位の心臓病も沖縄では全国よりかなり低かった。

要因として、いくつかのことが挙げられている。気候が温暖であったこと、食塩の摂取量が低かったこと、歴史的に中国の食文化の影響があったために豚肉からの良質タンパク質摂取量が多かったこと、土地がサンゴ礁でできていたために土壌および水にカルシウムやマグネシウムが多く、飲料水、農作物のカルシウム含量が高く、日本人の平均よりもかなり多くのカルシウム、マグネシウムをとっていた。特に主食の甘藷(甘藷はサツマイモと呼ばれるが、日本に最初に入ったのは沖縄といわれる)のカルシウム含量が高かった。沖縄は、台風が多く稲作容易ではなかったが、甘藷は被害がほとんどなかった。しかしながら、長寿地域として知られた沖縄は、2000 年に急に男性の寿命が26 位に転落し「26 ショック」と呼ばれた。2010 年には、それまで常にトップで会った女性の寿命が3 位に、男性では30 位に転落し「330 ショック」と呼ばれた。しかし、ここで注意したいのは、順位は下がったが寿命自体は延び続けていることである。この背景には、日本全体が脳卒中などに注意を払った結果、各種疾患の死亡率が低下したことが挙げられよう。